

子どものじあたま・こころ・あたまをはぐくむ
FAMよこはまアフタースクール直営プログラミングスクール

親子プログラミング体験会



2020年、小学校で必修化されるプログラミング教育。お父様お母様の子どもの頃にはなかった新しい学びです。「いったい何から始めたらよいのか」「少し難しそう」「子どもに教えられるかな」といったお声を聞くことが多くなりました。FAMよこはまアフタースクールでは、ユーバー株式会社より教材提供を受け、全く初めてのお子様とお家の方にも安心してご参加いただける小学生向けのプログラミングスクールを運営しています。キャリア豊富な元エンジニアの講師陣とFAMの仲間たちとともに、新たな一歩を踏み出してみませんか？

日時 第一回 2020年2月29日（土） 15:00-15:45(予定)

第二回 2020年3月15日（日） 11:00-11:45(予定)

場所 FAMよこはまアフタースクール 教室

申込 スクールウェブサイトにより各日程の1週間前までに
お申込みください（各回 先着 6名様まで）※3組以上で実施

参加費 一般の方 2,000円(税込) 内部生 1,000円(税込)

アフタースクールのご見学・体験利用は随時受入れております。
毎週のプログラミングレッスンの体験も可能ですよ。



FAMよこはまアフタースクール

〒220-0041 横浜市西区戸部本町38-10 山城屋ビル2階B教室

Mai info@fam.yokohama

TEL 045-548-3365 (受付時間 平日の13:00-19:00)

URL <http://fam.yokohama/>



小学校ではじまるプログラミング学習とは

2016年、政府が成長戦略にプログラミング教育の必修化を盛り込んでから4年後となる2020年いよいよ小学校課程のプログラミング学習必修化が始まります。2019年3月には、文部科学省が2020年度からの新学習指導要綱に基づく新しい教科書検定の結果を公表しました。いよいよ教科書に「プログラミング」が掲載されるのです。ただし小学校において「プログラミング」という教科が新設されるということではありません。算数や理科、総合などの強化学習の単元として「プログラミング」を実施することになります。

具体的には、正多角形を効率よくプログラミングで描く、自動販売機やまちの情報発信装置について仕組みを探究する、センサーを用いて通電を制御するといったことが例示されています。

では、子ども達が公教育でプログラミングを学ぶ目的ですが、「全員がプログラマーになるため」に学ぶではありません。文科省の「小学校プログラミング教育の手引き（第2版）」には、プログラミング教育を導入する理由について以下のように述べられています（抜粋）。

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/11/06/1403162_02_1.pdf

「コンピュータなどの情報機器やサービスとそれによってもたらされる情報とを適切に選択・活用して問題を解決していくことが不可欠な社会が到来しつつあります。コンピュータをより適切、効果的に活用していくためには、その仕組みを知ることが重要です。コンピュータは人が命令を与えることによって動作します。端的に言えば、この命令が「プログラム」であり、命令を与えることが「プログラミング」です。プログラミングによって、コンピュータに自分が求める動作をさせることができるのと同時に、コンピュータの仕組みの一端をうかがい知ることができるので、コンピュータが「魔法の箱」ではなくなり、より主体的に活用することにつながります。」「コンピュータを理解し上手に活用していく力を身に付けることは、あらゆる活動においてコンピュータ等を活用することが求められるこれからの社会を生きていく子供たちにとって、将来どのような職業に就くとしても、極めて重要なこととなっています。」

プログラミング学習を通じて「コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということ」を体験し「情報活用能力」に含まれる次の3つの基本資質の育成をねらいととしています。

【知識及び技能】身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと。

【思考力、判断力、表現力等】発達の段階に即して、「プログラミング的思考」を育成すること。

【学びに向かう力、人間性等】発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること。

つまり、子ども達は「プログラミング学習」を通して、あたりまえにICT機器やサービスを使いこなし、論理的思考力をもって変化のスピードが加速する未来の社会において課題に気づきそして課題を解決し生き活きと活躍する力を身に着けることになるのです。いまやテクノロジーと生活は密接であり、コンピュータサイエンスを正しく学ぶことは特別なことではなく、必要不可欠な一般知識になりつつあると言えるでしょう。今後、2021年には中学校、2022年には高等学校と必修化は高度に範囲が拡大されていくことにも納得できます。大学入試においても従来の詰め込み型の教育から脱却し「思考力」や「表現力」をはかる記述式問題が2021年からの大学入学共通テストで始まります。そしてCBT（Computer Based Testing）の導入も検討されている中、ICT機器の利活用は21世紀社会の必須スキルと言えます。

何から準備をしたらよいか・私たちにできること

子ども達が21世紀社会で生きるために必要な新たな学び「プログラミング」ですが、多くの保護者の方にはご経験のない学びであることは確かです。不安、苦手意識もあるかもしれませんが、でも、まずはお子さんと一緒に楽しんで身近に感じていただきたいと思います。プログラミングを学ぶために、高価な教材や特別なコンピュータや周辺機器、保護者の方の高度な知識がなければならぬということはありません。楽しいと感じて意欲的な姿勢でのぞむことが重要です。楽しくて好きなことは上達しますし、ますます楽しくなり自発的に挑戦するものです。私たちは、プログラミングの楽しさや創造性を感じていただける体系的で本格的なカリキュラムと、お子様とお家の方をいつでもヘルプできる環境を提供したいと願っています。

カリキュラム「うさプロ」の特長

楽しくて手軽！ 本格的！

最新版Scratch3.0を使用した、オリジナル教材はユバーパーログラミングスクール直営校のノウハウが詰まった高品質な教材です。楽しさ、わかりやすさ、意欲喚起、本格的な仕上がりにこだわり、改良に改良を重ねています。

創造性を育む！ 作品制作

アルゴリズムの学習は反復練習が必要です。楽しく練習問題をクリアしながら知識を習得。各テーマごとに小さなオリジナル作品を制作し発想力、創造力を育みながら知識の定着も図ります。デジタルえほん制作など協働作業も行います。

小学校での 学習も視野に

正多角形をプログラミングで描き、角度にも触れます。一歩進んで効率よく描くことにも挑戦します。その他キーボード入力に慣れる、楽器をプログラムで制作するなど小学校での学習も視野に入れながら、無理なく楽しく学びます。

スクラッチは米国マサチューセッツ工科大学のメディアラボで開発された子供など初心者向けのプログラミング言語です。Scratch is a project of the Lifelong Kindergarten Group at the MIT Media Lab (<https://scratch.mit.edu>).

教材提供を受けるユバー株式会社について

「楽しくて続けやすいプログラミング教育をすべてのお子様とお家の方へ」を理念として豊洲、東陽町、九段下で幼児、小学生向け直営教室ユバーパーログラミングスクールを運営。

2017年、2018年スクールの幼児・小学生チームが「第5回、第6回 デジタルえほんアワードキッズ賞」を2年連続受賞。<http://www.digitalehonaward.net/>

著書「遊びながら楽しく学ぶ！小学生のScratchプログラミング」（ナツメ社）
www.yuber.jp

